

令和6年度 GKP 広報大賞 エントリーシート

団体名 <p style="text-align: center;">東亜グラウト工業株式会社</p>	団体区分（混成の場合は複数☑） <input type="checkbox"/> 行政 <input checked="" type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> 学校・NPO・個人等
取組名 <p style="text-align: center;">「水循環に思いをはせる日」記念日関連活動</p>	
責任者（実際に広報に取り組んだチームの代表者） 氏 名：森早紀、青柳香菜里、南洞誠 所 属：管路グループ 企画部（広報担当） 電 話：03-3355-1531 E-mail：saki.mori@toa-g.co.jp、kanari.aoyagi@toa-g.co.jp、makoto.nando@toa-g.co.jp	
担当チームの構成 （外部人材を活用している場合や外部委託をしている場合等は、その旨記載して下さい） 水循環に思いをはせる日プロジェクトチーム（社長、総務グループ広報担当者、管路グループ広報担当者）	
取組のポイント （一言でいうとどういう取組かを、箇条書き等で記載して下さい） <ul style="list-style-type: none"> ○ 一言でいうと：「水循環という言葉を噛みしめ、年に一度でも思いをはせてもらおう」という思いから当社は11月8日を「水循環に思いをはせる日」として記念日登録を行いました。この記念日を人々に理解していただき、周知していただくための活動を行ってまいりました。 ○ 上記登録は①水インフラの置かれている状況を見つめ直す、②水インフラの大切さに気づいてもらう、③水インフラに携わる方々へ敬意と感謝を表す、④安全・安心で健全な水循環システムと暮らしを守るという意味・決意を込めました。自社の利益追求にとらわれず上下水道業界全体に貢献できるような日になりたいという思いが込められています。 ○ 本活動は上下水道業界以外の方にも参加、ご協力いただくことを重要視しました。 ○ 今年度は一般市民（小学生から大人まで）も参加したビーチクリーン&パネルディスカッションを実施。昨年度は中学生を対象とした出張授業を実施し、学生のうちから水インフラへの理解を醸成し、その後も水インフラの重要性を理解するためのきっかけ作りとすることができました。 	
アピールポイント <ul style="list-style-type: none"> ○ 一連の活動は社長も参加した部署横断の広報担当メンバーにより形成した「水循環に思いをはせる日プロジェクトチーム」にて運営しています。社長からのトップダウンにより企画から運営、情報展開までスピーディーに実施。また企画段階から自社社員が関わることで限られた予算内で実施を可能としました。 ○ 低予算で効率的に情報発信できるよう様々なメディア（YouTube・新聞・HP等）を活用して広報活動を展開しました。 ○ 当社は水循環に資する取組に関心のある企業や取組を実施している企業として、内閣官房水循環政策本部事務局が認証する「水循環企業」に登録・認証されました。 	
要したコスト <ul style="list-style-type: none"> ● 記念日登録はすべて自社社員で実施したため外部委託費ゼロ。 ● 一連の関連活動でイベント企画や運営、動画作成に一部費用が発生したが基本自社スタッフが実施。 	

ウラ面に続きます

取組の概要（適宜、写真や図等を挿入して下さい。複数年度にわたる取組の場合は、その旨記載して下さい）

当社ではこれまでも自社の PR にとどまらず、**上下水道の価値や業界のイメージアップに向けた情報発信**に挑戦してきました。**多くの皆様に上下水道への興味を持ち、理解を深めていただくため**に「水循環に思いをはせる日」関連活動を**4年**にわたり実施しています。

2022年度は、社長自らが出演し「オリンピック選手×経営者」の対談を実施。『時間の使い方』・『結果を出す』・『自然環境に対する想い』をテーマにしました。また同様に「オリンピック選手×経営者×ミス日本水の天使」対談も実施。『人はなぜ仮面を被るのか』をテーマとしました。**上下水道以外のテーマとした**



●2021年東京オリンピック
セーリング競技 外園潤平選手
●セーリング競技 国際スナイプ級
鈴木恵詞 氏
●代表取締役社長 山口乃理夫 氏



●オリンピックセーリング競技
元日本代表 土居愛実 氏
●2022ミス日本「水の天使」
横山莉奈 氏
●代表取締役社長 山口乃理夫 氏

ことで幅広い層の方に上下水道について興味を持ってもらえる
きっかけとなるよう努めました。上記2点はいずれも**当社 YouTube チャンネルにアップし好評**を得ています。

2023年年度は、都内の中学校にて「当たり前の前にある上下水道管の技術やお仕事とは？」をテーマに出張授業を2回実施。参加した生徒に**日々の生活に欠かせない水の存在や、その水を守る上下水道の技術について考えるきっかけを持ってもらう**ことができました。学生からは「水について努力して技術を開発



している人がいてすごいと思った。知識を深めたいと思った」や「普段当たり前に使っている水が恵まれていることだとわかり大切にありがたくこれからは使っていきたいと思った」などの声が聞かれました。先生からは「他のクラスでも実施してほしい」と次回につながるお言葉をいただきました。

2024年度は、神奈川県逗子海岸にて地元のボランティア団体とともにビーチクリーン活動（清掃）を実施。清掃後は社長やボランティア団体代表らと「美しい海のための水循環」をテーマにしたパネルディスカッションを行い、市民の皆様と水循環についての意見交換を行いました。**日本はいかに水資源に恵まれた**



国であるか、またそれを支える上下水道の役割を理解いただくことができました。この様子は**当社ホームページ特設サイトや YouTube チャンネルにアップし活動後も情報展開**を続けています。

成果（数字を交えるなど、できるだけ具体的に記載して下さい）

- 2022年度のオリンピック選手と社長の対談動画は全シリーズで**計4,300回以上再生**されています。
- 2023年度の出張授業には2回合計で**約60名**の生徒が参加し、上下水道業界への理解を深めました。
- 授業の様子は当社ホームページ特設サイト上にて公開しました（掲載期間約7か月）。この間、ホームページのアクセス数は月平均4,687PVを達成し、特設サイト公開前月の3,736PV比**125%**となりました。
- また授業の様子はWEB媒体の朝日新聞SDGs ACTION!にも掲載。記事公開から約1か月時点で**約1万PV**の閲覧数を獲得。さらに本記事はPCからのアクセスが多く（通常モバイル多）、読了率は5割以上を獲得（読了率：記事の90%までスクロールしたかどうか）。この結果から、アクセスしていただいた方々に**内容についてじっくりと読んでいただき、より深い理解に繋げていただけた**ことがわかります。
- 関連して、中高生に水循環の大切さについての理解を深めてもらう内容で朝日SDGsジャーナルに記事を掲載。この記事は**全国約5,000校の高校、約10,500校の中学校に配布**されました。
- 2024年度のビーチクリーン活動には約100名の逗子市民とともに当社社員10名が参加。
- この様子は当社ホームページ特設サイト上にて11月から公開。また当社YouTubeにて動画も公開し、ダイジェスト版と本編で**合計410回以上再生**されています（2024年12月9日現在）。